

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

令和 8 年 7 月 31 日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名		設置認可年月日				校長名		所在地									
早稲田文理専門学校		平成 22 年 8 月 10 日				佐藤 直子		〒 171-0033 (住所) 東京都豊島区高田 2-6-7 (電話) 03-5960-2611									
設置者名		設立認可年月日				代表者名		所在地									
学校法人中央情報学園		昭和 62 年 1 月 30 日				理事長 岡本 比呂志		〒 352-0001 (住所) 埼玉県新座市東北 2-33-10 (電話) 048-474-6651									
分野	認定課程名	認定学科名				専門士認定年度		高度専門士認定年度				職業実践専門課程認定年度					
工業	工業専門課程	AI デザイン学科				令和 2(2020)年度		—				令和 4(2022)年度					
学科の目的		AI やデータの活用・分析についての基礎的な技術を学び、社会や企業が抱える問題を統計、機械学習、プログラミングによって主体的に解決できる人材を育成する。															
学科の特徴 (主な教育内容、取得可能な資格 等)		AI やデータの活用・分析についての学習を通して、社会や企業が抱える問題を主体的に解決できる AI エンジニアやデータサイエンティストを育成する。 一人ひとりの個性にあったポートフォリオを指導し、資格の取得や討論や発表による能動的な学びにより、希望職種への就職を目指す。 取得可能な資格: Python3 プログラミング、IT パスポート、生成 AI パスポート等。としまイノベーションコンテスト等 IT コンテストにも積極的に参加。															
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数				講義		演習		実習		実験		実技		
2	年	昼間	※ 単 位 時 間 、 単 位 い ず れ か に 記 入	—	単位時間	—	単位時間	—	単位時間	—	単位時間	—	単位時間	—	単位時間	—	単位時間
				64	単位	32	単位	0	単位	32	単位	0	単位	0	単位	0	単位
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率									
70	人	75	人	75	人	100	%	0	%								
就職等の状況		■卒業者数 (C) : 22 人															
		■就職希望者数 (D) : 16 人															
		■就職者数 (E) : 16 人															
		■地元就職者数 (F) : 16 人															
		■就職率 (E/D) : 100 %															
		■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E) 100 %															
		■卒業者に占める就職者の割合 (E/C) 73 %															
		■進学者数 人															
		■その他															
		帰国、結婚など (令和 7 年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報)															
		■主な就職先、業界等 (令和7年度卒業生) IT 業界: 株式会社ジョブ会計、株式会社メイテックフィールダーズ、Tplus 株式会社、freewill、AR 株式会社、株式会社アドービジネスコンサルタント 技術職その他:株式会社ニチボウ、株式会社雅、I 株式会社掌、株式会社メディウムジャパン 等															

第三者による 学校評価	■ 民間の評価機関等から第三者評価： 無		
	※有の場合、例えば以下について任意記載		
	評価団体：	受審年月：	評価結果を掲載した ホームページURL
当該学科の ホームページ URL	https://www.wbc.ac.jp/creator/ai/		
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに 記入)	(A:単位時間による算定)		
	総授業時数		- 単位時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		- 単位時間
	うち企業等と連携した演習の授業時数		- 単位時間
	うち必修授業時数		- 単位時間
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		- 単位時間
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		- 単位時間
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		- 単位時間
	(B:単位数による算定)		
	総単位数		64 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		4 単位	
うち企業等と連携した演習の単位数		8 単位	
うち必修単位数		64 単位	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		4 単位	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		8 単位	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位	
教員の属性 (専任教員に ついて記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第 41 条第 1 項第 1 号)		0 人
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第 41 条第 1 項第 2 号)		1 人
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第 41 条第 1 項第 3 号)		0 人
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第 41 条第 1 項第 4 号)		2 人
	⑤ その他 (専修学校設置基準第 41 条第 1 項第 5 号)		0 人
	計		3 人
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は、AIを含むIT業界において必要とされる技術者を、産業界と連携し育成することを目的としている。教育課程の編成にあたっては、参加企業と連携して、必要な実践的かつ専門的な能力を育成することに注力している。本校の教育会議規程に従って、業界団体、企業からの委員が参加する教育課程編成委員会において、学校自己点検・自己評価の状況、その他学校が提供する情報、カリキュラム実施状況、業界・就職先企業の動向などを総合的に検討し、当該年度の教育課程の改善と次年度の教育課程編成の理念および基本方針を策定するとともに、学校の目標となる仕上がり像を策定し、科目の開設・授業内容・方法等を具体化させることにより、業界でも必要とされる実務に関する知識、技術および技能を備えた人材育成を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会を学校長のもとに設置する。教育課程の編成は、本校教務規程および教育課程編成委員会規程に基づき、企業等の委員、校長、教務主任、学科長などの参加による教育課程編成委員会において、実施年度の教育課程の評価・改善と次年度の教育課程編成の基本方針を決定する。

各年度において、第一回委員会では、前年度の教育課程の実施状況について評価・検討し、改善策の検討を行う。第二回委員会は、当該年度の教育課程の評価・改善を行うとともに、委員等から行われるAIを含むIT業界の動向と企業等で必要とされている人材像や人材要件の提示、授業科目および内容の提案、専門教員の要件および派遣提案、実習を取り入れる場合の企業等の提案、卒業後の人材受け入れ先企業の提案などを受け、次年度教育課程編成の理念と基本方針を策定し、そのもとで教務会議は、次年度の教育課程を編成し、実行する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
小椋 昇	(一社)東京都情報産業協会 委員 (株)ユーエスエス取締役	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日(1年)	①
有澤 麻紀	富士通(株)DX テクノロジー推進統括部マネージャー	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日(1年)	③
秦 晋吾	クラスメソッド(株) シニアマネージャー	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日(1年)	③
徳山 真旭	株式会社 AnchorZ 創業者	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日(1年)	③
岡本 比呂志	学校法人 中央情報学園 理事長	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日(1年)	—
佐藤 直子	早稲田文理専門学校 校長	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日(1年)	—
山崎 正実	早稲田文理専門学校 AI デザイン学科学科長	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日(1年)	—
小笠原 義成	早稲田文理専門学校 AI デザイン学科副学科長	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日(1年)	—
熊谷 健太	早稲田文理専門学校 AI デザイン学科教員	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回以上(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年8月27日 10:00～12:00

第2回 令和8年3月25日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

AIの進歩は極めて速く、教育課程編成委員会における企業委員からのメッセージも、開催のたびに大きく変化している。全体として、2025年は「AIを仕事に取り入れる時代」であったのに対し、2026年には「AIを前提として仕事そのものを設計する時代」へと移行しつつあることが明らかとなった。こうした企業ニーズの変化を踏まえ、本学科では教育カリキュラムの見直しを進めており、今年度はPBL型授業において、課題発見から企画・実装・評価までを一貫して経験するプロジェクト型学習を強化している。

従来の「AIを使える人材」の育成にとどまらず、自ら課題を発見し、AIを活用して解決策を構想・実現し、さらにAIに業務を担わせながら価値を創出できる人材の育成を目指す方針である。

(別途、以下の資料を提出)

* 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程

* 教育課程編成委員会等の規則

* 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3－1

* 学校又は法人の組織図

* 教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

様々な求人のニーズに沿った実践的かつ専門的な教育課程を実施するために、連携企業を中心として、カリキュラム・シラバスの作成、授業方法・実習の提案、講師派遣、教員研修、学生評価について協定書(業務委託契約)を受託企業と締結し、実施する。

実施にあたっては、教務会議が受託企業との定期的な報告会議の場をもち、進捗管理と問題解決を行う体制とする。担当科目に配置された専任教員は、企業からの派遣講師と連携し、授業内容の評価・改善を逐次行うとともに、企業等との連携により開催される研修に参加することにより専攻分野における実務の技能向上を図る。学生評価については、企業による一次評価を受けて、担当科目の専任教員が行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

業界のニーズに沿った実践的かつ専門的な教育課程を実施するために、連携企業を中心として、カリキュラム・シラバスの作成、授業方法・実習の提案、講師派遣、教員研修、学生評価について職業教育協定書を企業と締結し、実施する。実施にあたっては、教務会議が企業との定期的な報告会議の場をもち、進捗管理と問題解決を行う体制とする。担当科目に配置された専任教員は、企業からの派遣講師と連携し、授業内容の評価・改善を逐次行うとともに、企業等との連携により開催される研修に参加することにより専攻分野における実務の技能向上を図る。学生評価については、企業による一次評価を受けて、担当科目の専任教員が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科目概要	連 携 企 業 等
職業とキャリアⅠ・Ⅱ (1年次・2年次)	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	IT企業の仕事、欲しい人材増の講義	ティーアイシー
卒業制作 (2年次)	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	作品の指導・評価	ティーアイシー、ユーエスエス、富士通、クラスメソッド

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員に対する研修は、当校研修規程に基づいて、教務会議が、①専攻分野等における実務に関する研修、②授業方法・生徒指導など教員の資質向上に関する研修、③学校評価・マネジメントなど学校運営に関する研修と研修内容を3分類し、教員評価にもとづき、業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて、必要な研修を各教員に計画的に実施する。

専攻分野に関する研修においては、連携企業から講師を招いて校内で実施する研修と連携企業の研修会に専攻分野にかかわる教員が参加する研修で実施する。

教務会議は、上記方針のもと、教員に対する研修の年間計画を策定し、外部の研修に参加する教員をサポートし、その研修内容を参加した教員の校内報告会などで他の教員と共有し、教員の資質向上に向けて、組織的、計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ノーコード活用操作研修	連携企業等:	サイボウズ株式会社
期間:	令和7年8月8日	対象:	教員
内容	kintone を利用したノーコード業務アプリ開発の体験および教育活用への検討		
研修名:	IIT(東京都情報産業協会)フォーラム	連携企業等:	東京都情報産業協会
期間:	7月16日	対象:	IT 企業・学校
内容	産学連携新規会員向け検討会		
研修名:	社会人のためのデータサイエンス入門	連携企業等:	株式会社デジタル・ナレッジ、総務省
期間:	令和7年8月1日～8月31日	対象:	教員
内容	統計学の基礎		

②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	第30回専門学校教育研究会	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和8年3月24日	対象:	教員
内容	AI リテラシーを高めるための教育のあり方を事例を通して学ぶ		

(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	イプロス AI 2026 夏	連携企業等:	AI ソリューション関連各社
期間:	7月29日～31日	対象:	教員
内容	フィジカル AI、AI DX の動向調査		
研修名:	AI エージェントサミット Summer2026(Web セミナ)	連携企業等:	株式会社アイスマリー
期間:	7月29日 13:55～15:35	対象:	IT 部門
内容	AI エージェントサミットの事例紹介		
研修名:	社会の中の AI～人工知能の技術と人間社会の未来展望～	連携企業等:	株式会社デジタル・ナレッジ、東北大学
期間:	令和8年8月1日～31日	対象:	教員
内容	AI 技術の一例や変化の歴史、人間社会との繋がりや具体的利用例について知見を得る		

②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	人事は AI にどこまで任せてよいか	連携企業等:	(株)LegalOnTechnology
期間:	7月31日	対象:	就職部門
内容	就職活動に AI をどこまで活用するのか、日経新聞を毎週コラムを書いている曾和氏の講演		
研修名:	留学生受入れ及び在留手続と申請等取次研修会	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年10月16日	対象:	教職員
内容	申請取次制度に係る申請等取次者の認定申請に必要な入国管理制度の知識を得る		

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

業界団体・企業、高等学校等の役職員及び当学園関係者から構成される学校関係者評価委員会を設置し、委員会において、当学園の自己点検・自己評価委員会が、「専修学校における学校評価ガイドライン」(文部科学省:令和7年6月)、「東京都版自己点検評価項目」(東京都生活文化局:令和8年4月)、及び「学校法人中央情報学園における学校評価に関する要綱」(学校法人中央情報学園:平成24年6月1日)に基づいて取りまとめた自己点検・自己評価報告書の評価し、学校運営に関する改善のための助言及び支援を行うことを基本とする。委員会では、前年度自己点検・自己評価報告書をもとに、学校関係者が評価、検討を行う。その後、学校関係者評価報告書をホームページにてその内容を公開するとともに、改善提案を自己評価改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や具体的取組の改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	【東京都版】項目 1-1 教育理念、目的、養成する人材像の設定
(2)学校運営	【東京都版】項目 6-2、6-3、4-1、4-2 管理運営体制、学校評価の実施、教員組織の編成
(3)教育活動	【東京都版】項目 2-1、2-2、4-3 教育課程の編成、授業の実施、教員の資質向上(FD)
(4)学修成果	【東京都版】項目 2-3、2-4 単位・卒業認定、学修目標の達成状況、進路実現
(5)学生支援	【東京都版】項目 3-3、3-4 多様な学生への支援、生活・健康・キャリア支援
(6)教育環境	【東京都版】項目 5-1、5-2 施設・設備の整備、安全対策、防災組織
(7)学生の受入れ募集	【東京都版】項目 3-1 アドミッション・ポリシー、募集、選抜、定員管理
(8)財務	【東京都版】項目 6-1 中期事業計画と安定した財務基盤の確立
(9)法令等の遵守	【東京都版】項目 5-2、6-4 学校保健安全法等の遵守、情報の公表義務
(10)社会貢献・地域貢献	【東京都版】項目 6-3-①、6-4-② 外部意見(地域等)の活用、社会からの理解促進
(11)国際交流	【東京都版】項目 2-1-②、3-3-② 留学生向け授業、留学生の在籍管理・交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

■令和7年8月27日の学校関係者評価委員会における企業等の委員からの意見「WSDB やヨリソルといったデジタル化の取り組みは、引き続き積極的に推進していくべきである。」を受けて、現在業務で使用している様々なシステムを一元管理できる統合型スクールマネジメントシステム「ヨリソル」への移行準備を開始しており、早期の運用開始に向けて推進していく予定である。

■令和7年8月27日の学校関係者評価委員会における企業等の委員からの意見「発表会はアクティブラーニングの観点および1年生の就職活動への意識向上にもつながると期待されるとともに、多くの企業や学生の出身校関係者を招くことで、進路先および入学生の増加が期待される。」を受けて、今年度は企業関係者を招致する体制を強化し、学生の就職意識の向上を推進していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和 7 年 7 月 31 日現在			
名 前	所 属	任期	種別
清水 雅己	埼玉工業大学工学部教授 前埼玉県立大宮工業高等学校長	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 9 年 3 月 31 日(1 年)	校長等
竹中 輝夫	株式会社)ティー・アイ・シー 特命顧問	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 9 年 3 月 31 日(1 年)	企業等委員
廣嶋 祐子	東京商工会議所 人材・能力開発部 人材支援センター 所長	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 9 年 3 月 31 日(1 年)	地域等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.wbc.ac.jp/school/information/>

公表時期: 令和7年8月31日

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校は、公的な教育機関として、学生、保護者、業界関係者、地域住民などに、教育活動その他学校運営情報を提供する。とりわけ実践的かつ専門的な職業教育を実施するにあたり、当校に対する理解・評価を促進し、関係業界・企業等との連携を推し進め、教育活動の改善と社会的信頼を得ていくことを目指す。

情報提供する項目については、文部科学省「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に準拠する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)教育理念・校訓・教育方針および教育目標 (2)理事長及び校長名、所在地、連絡先等 (3)学校の沿革、歴史 (4)学校保健安全計画
(2)各学科等の教育	(1)入学者に関する受入れ方針及び収容定員、在校生数 (2)カリキュラム (3)進級・卒業の要件等 (4)学習の成果として取得を目指す資格 (5)卒業者数、卒業後の進路
(3)教職員	(1)教職員の組織 (2)教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(1)キャリア教育への取組状況 (2)実習・実技等の取組状況 (3)就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	(1)学校行事への取組状況 (2)課外活動
(6)学生の生活支援	(1)学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	(1)学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) (2)奨学金、授業料減免等の経済的支援措置
(8)学校の財務	(1)学校の財務状況 貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書、財産目録
(9)学校評価	(1)学校自己評価報告書および評価結果を踏まえた改善方策 (2)学校関係者評価報告書および評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	(1)留学生の受入れ状況 (2)外国の学校等との交流状況
(11)その他	(1)学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.wbc.ac.jp/school/information/>

公表時期: 令和7年10月1日

授業科目等の概要

	(工業専門課程 AI デザイン学科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネスコミュニケーションⅠ	企業で働く際の基本を身につけ、スムーズ就職活動に入れる心構えを育成する。	1 通	64	4	○	△		○		○		
2	○			職業とキャリアⅠ	就職や進学のためのキャリアプランを作成し、就活を行うための基礎力を身につけることができるようになる。	1 通	64	4	△	○		○		○		○
3	○			ICT 活用Ⅰ	ICT の基本スキルを学習するとともに、最新 AI 技術動向について知識を得る。さらに公式テキストを利用して情報活用試験3級(J 検定3級)を取得するスキルを修得する。	1 通	68	2	△	△	○	○		○		
4	○			生成 AI・情報学基礎	近年急激に普及が進む生成 AI について、原理や基盤技術、使用にあたってのリテラシーを学び、適切で効果的な活用ができるための力を身につける。	1 通	64	4	○	△		○		○		
5	○			ビジネスコミュニケーションⅡ	企業や病院、官公庁の仕事など、どんな仕事でも相手に満足してもらうため、すべてのビジネスに存在するサービスを学び、相手に満足してもらえる接遇を身につける。	2 通	64	4	○	△		○		○		
6	○			職業とキャリアⅡ	就職や進学のためのキャリアプランを作成し、就活を行うための応用力を身につけることができるようになる。	2 通	64	4	△	○		○		○		○
7	○			ICT 活用Ⅱ	IT に関する総合的な知識を身につける。具体的には、IT パスポート試験の合格を目標とした学習を経て、就職活動に向けた資格の取得、および基礎となる技術的・経営的知識を身に付けて就職後 IT エンジニアとして活躍するために活かす。	2 通	64	4	○	△		○		○		
8	○			経営戦略と AIⅠ	AI を学び、アクティブラーニングの実践により、主体的な学習方法を身につける	1 通	64	4	○	△		○		○		
9	○			データサイエンスⅠ	この講座は、データ分析に必要な数学的リテラシーや可視化の技術など、基礎スキルを習得するとともに、データサイエンティストの業務を模擬的に体験することで、実践的なデータエンジニアリングの基礎力を養うことを目的とする。	1 通	136	4	△	△	○	○		○		
10	○			プログラミングⅠ	基礎的なコンピュータシステムの理論を理解し実装できる能力、及び、完成した基礎的な制作物を分かりやすく適切にプレゼンテーションできる能力を養う	1 通	136	4	△	△	○	○		○		
11	○			AI プロジェクトⅠ(PBL)	AI アプリの体験学習と事例研究、実際の開発実習を通して、Traditional AI や生成 AI の基礎を理解する。AI プロジェクトⅡと合わせ「AI プロジェクトを推進できるIT エンジニアのスキル」を習得する。	1 通	68	2	△	△	○	○		○		
12	○			経営先着と AIⅡ	社会課題を解決できる AI エンジニアをめざすために、AI の理論や経営戦略を学び、課題解決のための提案やポートフォリオを作成する	2 通	64	4	○	△		○		○		
13	○			データサイエンスⅡ	この講座は、データ分析に必要な数学的リテラシーや可視化の技術など、基礎スキルを習得するとともに、データサイエンティストの業務を模擬的に体験することで、実践的なデータエンジニアリングの基礎力を養うことを目的とする。	2 通	136	4	△	△	○	○		○		

14	○			プログラミング II	基礎的なコンピュータシステムの理論を学習し実装できる能力を身に付ける, 及び, 完成した制作物を分かりやすく適切にプレゼンテーションできる能力を修得する。	2 通	136	4	△	△	○	○		○		
15	○			AI プロジェクト II (PBL)	事例研究と課題解決型授業を通じて Traditional AI や生成 AI を理解する。 また、機械学習・活用プロセスを体験的に学ぶことにより、「AI プロジェクトを推進できる IT エンジニアのスキル」を習得する。	2 通	68	2	△	△	○	○		○		
16	○			総合教養 I	1. IT に関する教養を身につけ、エンジニアとして活躍するための基礎力を身につける。 2. AI 及びデータサイエンスを学ぶにあたり重要となる計算機科学・数学的基礎力を身につける。	1 通	68	2	△	△	○	○		○		
17	○			AI 活用制作	課題→AI で解決する(ことを考え実践)→その内容をわかりやすく伝える(プレゼン)。 AI を活用した制作と発表を目標とする。	1 通	68	2	△	△	○	○		○		
18	○			総合教養 II	クラウドシステムを理解し、制作活動に活かせるようにする。 AWS-CLF の資格取得を目指す	2 通	68	2	△	△	○	○		○		
19	○			卒業制作	・卒業制作に必要なプログラミング技術を習得する。 ・AI を活用した卒業制作を完成させ、制作物についての発表を行う。	2 通	136	4	△	△	○	○		○		○
合計					19 科目			64 単位(単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 出席率 80%以上かつ取得すべき単位の全てを取得すること	1学年の学期区分	前・後 期
履修方法： 必要科目のすべてを履修すること	1学期の授業期間	18 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。